

# Eureka XI

六年制通信 No.18 令和5年9月22日(金)号

## 22 億秒

毎朝早く出勤しているのですが、毎日毎日君たちの登校時に事故がないことを祈っています。SHR の時間になってみんなが無事に登校しているとホッとします。二千人規模の学校ですからね。三重高通りの交通量も増え続けているし、いつ「もらい事故」が起こってもおかしくないと思います。自転車で通学している生徒諸君は自分が交通ルールを守っていれば安全だなどと考えるはいけません。最近は高齢のドライバーも増えていますからね。車が自分たちをちゃんと認識していると思込まないことが大事です。私の感想かもしれませんが、松阪は不注意な車の運転が多いと思います。もちろん歩行者と接触しないようにね。加害者になってもつまらないですから。

事故に遭ったり病気になったりするリスクをなるべく回避すること、これは君たちが入学したときに私と約束した「自分で死なない」の一環です。自分の力ではどうしようもない事故や病気もあるわけですが、それでもできるだけの注意をして生活しましょう。それでも私たちはいずれ誰もが死んでしまいます。どれだけ自分を大切に生きても必ず時間が来れば死にます。命とは時間、そう考えて差し支えないでしょう。君たちが平均寿命まで生きてとします。君たちの頃は男女とも 90 歳を超えているかもしれませんね。あとごっくり 70 年生きたとした場合、これを日数にすると×365 ですから 25,550 日、時間にすると×24 ですから 613,200 時間、一気に秒まで計算すると 2,207,520,000 秒、およそ 22 億秒です。これが君たちの人生の持ち時間です。一日が過ぎれば、そのうちの 8 万 6 千秒余りが失われます。そして二度と戻ってきません。

一般に青春時代というと高校・大学の 7 年間で指すようですが、7 年間は 2,555 日であり 61,320 時間であり 3,679,200 分であり 220,752,000 秒のことです。2 億 2 千万秒ですな。これがどんどん失われていきます。誰が言ったか忘れましたが「限りない焦燥と不安の中で僕の青春は刻一刻と失われていく」ことを誰も否定できません。青春ど真ん中に生きる君たちの時間も、そして青春もいずれ失われていきます。

しかも、これは自分にだけ起こる現象ではありません。万人の、今生きているすべての人の時間が一秒ずつ確実に失われていきます。命とは時間であるということを知覚するのなら、誰かと共有する時間というのはその相手の命を共有していることとなります。私が遅刻する人を嫌うのは、待っている間に私の命が削られる、そう感じているからでしょうね。君たちも誰かと時間を共有しているとき、それは命を共有しているのだということを知覚しましょう。これは、いつも言うように、自分ひとりの時間を大切にすることにもつながります。その大切な孤独の時間を阻害する SNS の世界

を私は嫌悪しています。もちろん私個人は関わりませんが、君たちが家に帰ってからでも誰かとおつながっていたいとか、ゲームをしてヴァーチャルの世界で時間を（つまり命を）すり減らしているのを耳にすると、何てもったいないことをと悲しくなります。匿名の嘘だらけの、悪意の世界に時間をかけるなど、人生の浪費以外の何物でもありません。日本人は優れた資質を持っていると同時に、独りを慎むという点で弱いですね。匿名の世界で誹謗中傷を行う恥ずべき行為が、残念ながら多いようです。

ニューズウィーク日本版（2023 6/6号）によると「フェイスブックで自ら積極的に情報発信を行っている日本人は5.5%で、アメリカ（45.7%）、ドイツ（25.9%）、イギリス（34.9%）と比較すると著しく低い。さらに他の媒体でもほぼ同様に、ツイッターで積極的に発信している人は9%でアメリカの半分程度。ブログ利用者の中で閲覧のみという人の割合もアメリカの2倍となっている。一方で、21年にはツイッター社（当時）に対する情報開示要求は全世界で日本が最多となっており、利用者数で首位のアメリカよりも多い。日本では特定の人がSNSで発信する割合が高く、かつネット上での誹謗中傷が多い国ということになる」らしいのです。これ、恥ずかしいことですね。

たった一度の人生。しかも今の君たちは大切な青春時代。地下に溜まった泥水を見るような青春を送ってはいけません。美しい虹を見ようとして下さい。

### 今週のおすすめ

・今井むつみ 『英語独習法』（岩波新書）

仕事柄、英語に関する本は手に取るようにしています。中には著者が英語学の訓練を受けていないのが丸わりの駄本もありますが、今回の本はよかったですよ。ただし生徒諸君には難しいかな。英語の先生用といった内容です。でも背伸びしたい人はどうぞ。今井先生は認知科学が専門の学者さんだけあって、非常に説得力をもって、しかも斬新な視点から「なぜ日本人にとって英語は学びにくいのか」を説明しています。

「スキーマ」という概念を導入しているのですが、これがこの本の一つの核です。例えば日本人は「恥ずかしい」という単語について日本人共通のイメージを持っていますね。靴下の穴が開いていて、それを好きな人に見られて恥ずかしかった。罪を犯した子どもに親が「ご先祖様に恥ずかしくないのか」など、どういう場面でどういう感情の時に「恥ずかしい」という言葉を使うのか、そういう枠組み、単語の意味する範疇のことをスキーマというのです。これが日本語と英語では違うわけで、そこに目を向けて英語を学ばないと修得はできない、今井先生はそう言います。上記の「恥ずかしい」は英語ではそれぞれ別の単語です。ずんずん歩く、ふらふら歩く、よちよち歩く、これらの動詞は日本語ではすべて「歩く」、そしてオノマトペを使います。これをそのまま英語にしようとする **walk** はそのままにして、「ずんずん」「ふらふら」「よちよち」をどうにか英語にしようとするわけですが、英語では **walk** を使わずこの三つの表現を別の単語で表現します。コーパスの使い方など丁寧に解説されていますが、諸学者には難しいはず。だから読んでわからなくてもがっかりしなくていいですからね。

BGMは Superfly の *Alright!!* でした…。